

# 絵画修復家のアトリエから

加賀優記子 絵画修復家

35

新年明けましておめでとうございます。今年もあつという間にやってきました。

歳を取ると、一年が過ぎるのは早いとよく年配の方が言っているのを聞きました。が、とうとう自分もそんな年齢になったのかと思うと同時に、それにしても1週間が飛ぶように過ぎるのは、いくらなんでもヒドイ、と半ばアキレてしまっています。ボクはそんなことないけど……と、今一瞬考えたあなたは良かったですねー、若いですよ?!

と、いうことで、(1週間が妙に速く過ぎてしまうせい?)お正月だというのにアトリエの中は、例年にもまして去年から引き続いての未修復作品で一杯な状態です。岡鹿之助の大作あり、安井曾

ないで常にゆったり、なんていうのは、それだけ自分のペースが出来てきたとか、心に余裕が出来てきたとか、そういう事柄ですが、もひとつ付け加えれば、それだけフテフテしくもなったっていうか……?

昨年末は、突然アトリエに大きな今井俊満の絵が運び込まれてきました。100号のキャンパスに、金箔が全面に貼られ、ここに真っ赤な絵の具をたっぷりと盛り上げてグルグルグル、と線状に描きつけられたもの。今井の作品で、良く知られているのは、晩年近く制作されてきた、日本の着物の柄のような、花などをリトグラフで刷り上げたものがありますが、さすがに昔、サム・フランシスと親交があっただけあって、初期の作品はすごいアンフォルメルな作風なんだなあ、と改めて感心しました。

今井の作品は、パリに住んで居た時、大掛かりな展覧会があって、例の華やかな着物調の柄の大作がずらりと並んでたのを見たことがあります。結構な人の入りで、こういうのは欧米人に好まれるんだろうな、と思ったことと、でもなんか少しそういうことに迎合している感があ

って綺麗だけど残念だな、と考えたことを思い出しました。今、この激しい赤い線がのた打ち回る作品と対峙して思っていることは、数年前に亡くなったこの作家の、色々な思考や生き方を眺めているように感じ、人間は、どこまで自分の心に本音で最後まで格闘できるのか、そして絵というものは、この問いに最もストレートに反映されてくるものなのだという点も、改めてハッとさせられたのです。ここ数年、子育てに追われ、殆んど感受性も人生に対する信念すらも、どこかにウツチャラれて、ひたすら「明日時間通りに起きてお弁当作れるか」なんていうことばかり考える者に成り下がっています。私は、年末に、こんなきつかけから、また「その人の生き方が作品の芸術性を決める」という以前はかなり真剣に取り組んでいたモットーに立ち戻ることが出来ました。

き方こそ実は子育てに必要なものなんだというのを再認識できた、という気がして、爽やかな気持ちになりました。……本来、一人の人間を育てるなんて、最も難しく、何かしら信念を持たないと出来ないことかもしれない。それを世間の風潮では「もつと肩の力を抜いて自然体で子育てしよう」とか、でも「子供には良い教育環境を(つまり塾とかお受験とか)」だなんて、色んなスローガンに

私達は振り回されている。でも、やはり根底に流れる「生きる」事の何かしら信念みたいなものが、親のそうした土壌が、子供の根っこを支えるのだと思った。だから、私は自分の心や信念にまっすぐに、純粋に生きよう、激しくたっついていいじゃない? と開き直ってみることにした。……私の今年の抱負は、そんなところかな。

工房に持ち込まれる色々な絵描きの絵を見るたびに、「〇〇の時代のですね」「あく残念、一番いい時代の絵はもつと高価ですよ」なんて日頃私は画商さんと話している。しかし考えてみたら、なんて人の一生は短いことか。そういう作家達の人生、絵を知るにつけて、そう思

う。いい時代なんてのは、ほんの数年。ピカソみたいにずっといい時代ばかりなんてホントに滅多に無いんだから。「いい時代なんてぜんぜん無かったですねー」と、言われつつもお金持ちになつた作家だっているだけだね。年を取るにつれて、私は別に人から評価を受けたいなんてこれっぽっちも思わなくなつた。だからこそ今はマイペースになることができたし、若いときより現在ののそういう自分のほうが好き。(き

つと他の人はこんな私はキラライ!と思つてると思うけど……?)出来ればいつも、自分の人生が、自分から見てホンモノで、いい生き方が出来た!と思えるといいなあと思う。でも、それには強くなつちゃね。で、正直でなきゃ。最近、だから可燃のゴミ袋にビニールはほんのちよつとだつて入れないぞ(あれ?急に話が小さくなつた? でも人類、生物の根っこは、地球だからねー!)

あ、ものすごく余談ですけど、密教の考え方の中では19、20という数字はとても良いのだそうです。そういえば、昭和19、20年は日本は敗戦で大変な年でした。この平成20年は果たして大丈夫か? サブ・プライムローンの煽りで去年のオークションの落札件数は軒並み低かったそうです。(ロシアの卵20億円は別格)この春はガソリンの値上げで航空運賃も軒並み上がるので私は海外旅行に

なんか行けそうにありません。はたまた富士山大噴火か? なんて心配するときに無いけど、この私の不気味な予言が的中しませんように、どうぞ皆様の一年が素敵な一年です様に!(ちなみに21という数字はものすごくいい数だそう……だからこの一年頑張つて乗りきりましょう!)

あけましておめでとうございます、今年も宜しく!  
今井俊満の作品を背景に



あけましておめでとうございます、今年も宜しく!  
今井俊満の作品を背景に